



環境経営レポート

(2021年4月～2022年3月)



2022年4月25日

中国エンジニアリングサービス株式会社

1. 組織の概要

(1) 事業者名： 中国エンジニアリングサービス株式会社

(2) 代表者： 代表取締役 井上 久士

(3) 所在地

本社： 広島市南区東雲二丁目 14 番 6 号

中部事務所： 三重県四日市市三ツ谷町 15 番 22 号

江波事業所： 広島市中区江波西一丁目 15-54 広島市江波水資源再生センター内

緑井事業所： 広島市安佐南区緑井町 311 番 広島市緑井浄水場内

牛田事業所： 広島市東区牛田新町一丁目 8-1 広島市牛田浄水場内

四日市事業所： 三重県四日市市中村町字塚谷 2509-1 (株)東芝セミコンダクター内 250 棟

東浦事業所： 愛知県知多郡東浦町舟木 50 (株)JDI 東浦工場内

東広島事業所： 広島県東広島市吉川工業団地 7-10 マイコンメモリジャパン広島工場 G 棟

安芸事業所： 広島県安芸郡坂町 1322 番地 11 号 安芸衛生センター内

尾崎川排水機場： 広島市安芸区矢野町尾崎

宇津戸川水質浄化施設： 広島県世羅郡世羅町大字川尻字権現山

本川排水機場： 広島県竹原市塩町一丁目 1 番

(4) 事業内容

上下水道施設・環境プラント等の運転維持管理業務の管理、建設業

(5) 事業の規模

①売上高および工事件数 (2021 年度)

総売上： 7 億 9,229 万円

建設業売上高： 6,010 万円

工事件数： 46 件

②従業員数： 95 名 (うち本社 17 名, 中部事務所 3 名)

③床面積： 本社事務所 87.75 m², 倉庫 23.6 m², 中部事務所 44.14 m²

(6) 連絡先： 環境管理責任者 岩崎 洋 (TEL: 082-283-2737)

2. 対象範囲 (認証・登録範囲)

(1) 組織：本社 (従業員 17 名), 中部事務所 (従業員 3 名)

江波事業所 (12 名), 緑井事業所 (2 名), 牛田事業所 (2 名),

尾崎川排水機場 (1 名) 合計 37 名

注 1：東広島事業所など 4 事業所は、受注先の管理下で常駐して、環境プラントの運転維持管理業務を実施していることから対象範囲に含めていません。

(2) 事業活動：上下水道施設・環境プラント等の運転維持管理業務の管理、建設業

3. 環境経営方針

環境経営方針

「水と空気と環境に関する企業として、豊富な経験を活かし、
最良の技術とサービスを提供することで地域と社会に貢献する。」

当社は、各種環境プラントの維持管理（運転操作・監視・機械設備保全等）の遂行にあたり、豊富な経験と積み上げてきた技術力を駆使して、地球温暖化の防止や循環型社会の形成に貢献するとともに、事業活動に伴う環境影響をできるだけ少なくするために、環境経営システムを構築・運用し、全社一丸となって環境保全活動の継続的改善に取り組めます。

＜環境保全への行動指針＞

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを守ります。
2. 具体的な取り組みとして、次のことを推進します。
 - 1) 電力や化石燃料使用量削減による二酸化炭素排出量の削減
 - 2) 廃棄物の削減と適正処理
 - 3) 環境に配慮したプラント管理業務の提供
 - 4) 節水
 - 5) グリーン購入の推進

制定 2015年 7月 31日

改定 2022年 4月 1日

中国エンジニアリングサービス株式会社

代表取締役 井上 久士

4. 実施体制

中国エンジニアリングサービス株式会社は、「エコアクション21建設業者向けガイドライン(2017年版)」に基づき、環境経営システムを構築・運用する。
システムの基本事項は、以下のとおり。

作成日 令和4年4月1日

1. 対象範囲

- (1) 対象事業所 本社：広島市南区東雲二丁目14番6号
中部事務所：三重県四日市市三ツ谷町15番22号

以下の事業所は、管理主体である自治体やプラントメーカー等の管理のもとで業務の一部を実施していることから対象外とする。

- ①江波事業所 ②緑井事業所 ③牛田事業所 ④東広島事業所 ⑤安芸事業所
⑥尾崎川排水機場 ⑦宇津戸川水質浄化施設 ⑧本川排水機場
⑨四日市事業所 ⑩東浦事業所

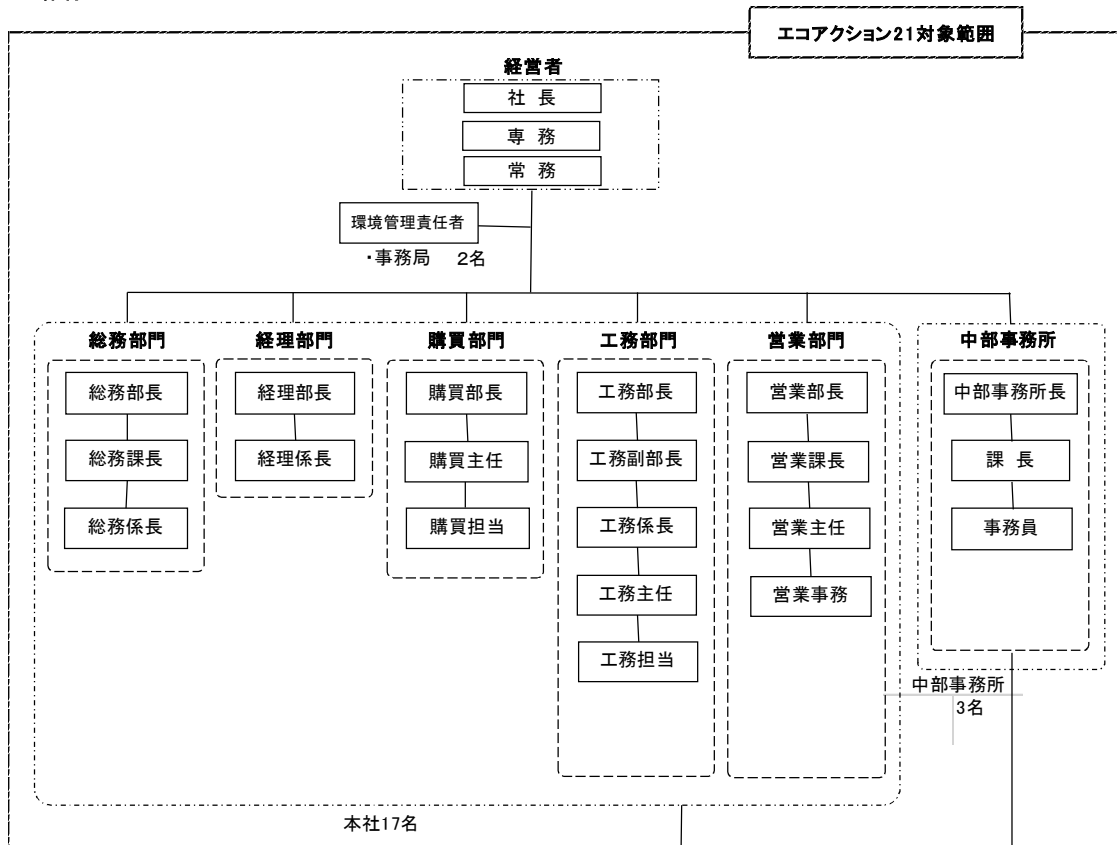
- (2) 組織:全組織

「第2項体制」による。

- (3) 活動

- ① 本社業務…全事業所の管理業務
② 建設業
③ 中部事務所管轄の事業所管理業務の一部

2. 体制



役割・責任・権限

- ◎ 経営者
 - ・EA21システムの統括
 - ・環境方針の策定
 - ・実施体制の構築
 - ・全体の評価と見直し
- ◎ 環境管理責任者
 - ・EA21システムの構築・運用
 - ・上記運用状況の経営者への報告
- ◎ 事務局
 - ・環境管理責任者の補佐
- ◎ 各部門長
 - ・各部門に関連する活動計画の実行等EA21システムの統括
- ◎ 従業員
 - ・環境方針や各自の役割を理解し、環境活動に取組む

事業所所属従業員

- ① 江波事業所
- ② 緑井事業所
- ③ 牛田事業所
- ④ 東広島事業所
- ⑤ 安芸事業所
- ⑥ 尾崎川排水機場
- ⑦ 宇津戸川水質浄化施設
- ⑧ 本川排水機場

下請等の協力会社

事業所所属従業員

- ⑨ 四日市事業所
- ⑩ 東浦事業所

5. 環境目標と環境目標達成状況

(1) 環境目標

本社，中部事務所，会社全体の「環境目標」を以下のとおり定めました。

表 5-1 本社の環境目標

項 目	基準年度 基準値	2021 年度 (4 月～3 月)	2022 年度 (4 月～3 月)	2023 年度 (4 月～3 月)
電気使用量の削減	2020 年度 14,866kWh	削減 1 % 14,717 kWh	削減 2 % 14,569 kWh	削減 3 % 14,420 kWh
化石燃料使用量の削減	2020 年度 8,712 リットル	削減 1 % 8,625 リットル	削減 2 % 8,538 リットル	削減 3 % 8,451 リットル
建設廃棄物再資源化 の徹底	2020 年度 再資源化率 79.0%	建設廃棄物 再資源化の徹底 ・測定	建設廃棄物 再資源化の徹底 ・測定	建設廃棄物 再資源化の徹底 ・測定
受託事業所における 環境活動の徹底	—	環境活動の徹底	環境活動の徹底	環境活動の徹底
グリーン購入の推進	—	エコ商品購入 割合を 90%以上	エコ商品購入 割合を 90%以上	エコ商品購入 割合を 90%以上

(注) 1. 「基準値」は 2020 年度の実績値である。

2. 事務所の水使用量、ガス使用量は個別のメーターがなく家賃に含まれているため、数値として把握できない。数値目標としては設定しないが、節水・節ガスの取組は徹底する。建設現場の電気使用量、水使用量は把握できないため、数値目標は設定しないが、節電・節水の取組は徹底する。
3. 一般廃棄物は、排出量が少ないことから削減目標は設定していないが、分別等の取組は徹底する。
4. 化学物質は使用していない。

表 5-2 中部事務所の環境目標

項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度
電気使用量の削減 (基準値：4,004kWh)	削減 3 % 3,884kWh	削減 4 % 3,844kWh	削減 5 % 3,804kWh
化石燃料使用量の削減 (基準値：4,613 ㊦)	削減 3 % 4,475 ㊦	削減 4 % 4,428 ㊦	削減 5 % 4,382 ㊦
環境活動の徹底	環境活動の徹底	環境活動の徹底	環境活動の徹底
節 水	削減 0%・19m ³	削減 0%・19m ³	削減 0%・19m ³
グリーン購入の推進	エコ商品購入 割合を 90%以上	エコ商品購入 割合を 90%以上	エコ商品購入 割合を 90%以上

- (注) 1. 「基準値」は 2017 年度の実績値である。
 2. 水使用量については、1 ヶ月使用量が少ないため「2017 年度基準値 19m³」を「目標値」とし、節水の取組を徹底する。
 3. ガス使用量について 2017 年度は毎月 0m³であったため、数値として把握できない。そのため数値目標としては設定しないが、節ガスの取組は徹底する。
 4. 一般廃棄物は、排出量が少ないことから削減目標は設定していないが、分別等の取組は徹底する。
 5. 化学物質は使用していない。

表 5-3 会社全体の環境目標

項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度
電気使用量の削減	18,601kWh	18,413kWh	18,224kWh
化石燃料使用量の削減	13,100 ㊦	12,966 ㊦	12,833 ㊦
建設廃棄物 再資源化の徹底	建設廃棄物 再資源化の徹底 ・測定	建設廃棄物 再資源化の徹底 ・測定	建設廃棄物 再資源化の徹底 ・測定
受託事業者における 環境活動の徹底	環境活動の徹底	環境活動の徹底	環境活動の徹底
節 水	節水の徹底	節水の徹底	節水の徹底
グリーン購入の推進	エコ商品購入 割合を 90%以上	エコ商品購入 割合を 90%以上	エコ商品購入 割合を 90%以上

(2) 環境目標達成状況

2021年度の本社、中部事務所、会社全体の環境目標達成状況は以下のようになりました。

表 5-4 本社の環境目標達成状況

項 目	単 位	目 標	実 績	評 価
電気使用量の削減	kWh	14,717	16,033	×
化石燃料使用量の削減	%	8,625	9,627	×
建設廃棄物再資源化の徹底	-	再資源率 79%	再資源率 47%	×
受託事業所における環境活動の徹底	-	環境活動の徹底	環境活動の徹底	○
節水	-	節水の徹底	節水の徹底	○
グリーン購入の推進	-	エコ商品購入 割合を 90%以上	エコ商品購入 割合 89%	×
電気及び化石燃料使用に伴う 二酸化炭素排出量実績	kg-CO ₂	30,562	33,830	×

上記、電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量実績は、目標より **10.7%増加**した。(購入電力の二酸化炭素排出係数は、中国電力の2013(H25)年度の調整後排出係数 0.717kg-CO₂/kwh を使用した。)



表 5-5 中部事務所の環境目標達成状況

項 目	単位	目 標	実 績	評価
電気使用量の削減	kWh	3,884	3,376	○
化石燃料使用量の削減	%	4,475	147	○
環境活動の徹底	-	環境活動の徹底	環境活動の徹底	○
節水	-	削減 0%・19m ³	削減 0%・16m ³	○
グリーン購入の推進	-	エコ商品購入 割合を 90%以上	エコ商品購入 割合 86%	×
電気及び化石燃料使用に伴う 二酸化炭素排出量実績	kg-CO ₂	12,246	1,962	○

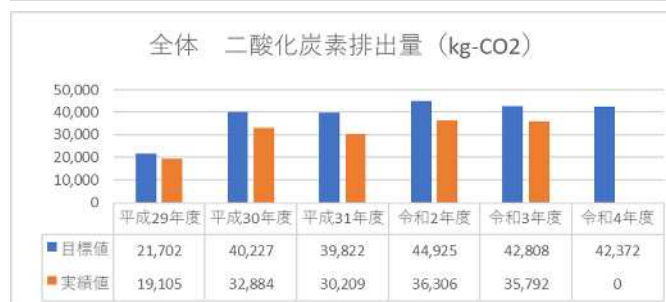
上記、電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量実績は、目標より **84.0%減少**した。(購入電力の二酸化炭素排出係数は、中部電力の2016(H28)年度の調整後排出係数 0.480kg-CO₂/kwh を使用した。)



表 5-6 会社全体の環境目標達成状況

項 目	単 位	目 標	実 績	評 価
電気使用量の削減	kWh	18,601	19,409	×
化石燃料使用量の削減	%	13,100	9,774	○
建設廃棄物再資源化の徹底	-	建設廃棄物再資源化の徹底	建設廃棄物再資源化の徹底	○
受託事業所における環境活動の徹底	-	環境活動の徹底	環境活動の徹底	○
節水	-	節水の徹底	節水の徹底	○
グリーン購入の推進	-	エコ商品購入割合を 90%以上	エコ商品購入割合 89%	×
電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量実績	kg-CO2	42,808	35,792	○

上記、電気及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量実績は、目標より **16.4%減少**した。



6. 主要な環境活動計画の内容と取り組み結果の評価、次年度の取組内容

(1) 電気使用量の削減

空調の適正温度管理や不要照明をこまめに消すなどにより、電気使用量の削減に取り組んだのですが、本社で目標を達成できませんでした。理由としては、換気しながらのエアコンの使用や、打ち合わせなどのWEB会議、提出物をメールや郵送で対応したことによる事務所での作業時間の増加、またパソコンやエアコンなどの電子機器の使用時間が増えたことが考えられます。また、夏、冬の気温に対してのエアコン使用量が影響したものと思われます。

次年度の取組として、本年度、目標達成できなかったが、当初の計画通りさらに1%削減を目標値とし、引き続き活動を徹底し、CO₂排出削減に努めます。

節電喚起



エアコン温度設定



換気状況



(2) 化石燃料使用量の削減

使用する社用車のガソリン使用量については、ハイブリッド車の導入、アイドリングストップの励行、急発進・急加速をしないなどのエコドライブを心がけたのですが、本社では目標達成できませんでした。理由としては、業務状況による距離や回数のほか、感染症予防のため1現場に複数の社用車での移動が考えられます。

中部事務所は目標達成できましたが、目標値より大幅に使用量が減少しました。理由としては、感染症予防のため、業務をメールや郵送で対応し外出を控えたためと考えられます。

次年度については、仕事量に比例してガソリン使用量も増加すると見込まれますが、常日頃のエコドライブを意識して、年間目標の達成に向けて、取組を徹底していきます。なお、建設業に使用する重機等に関し、その使用頻度はかなり低く専門業者に委託する場合が大半と見込まれます。そのため重機等建設業に伴う二酸化炭素排出量は、低騒音省エネ対応済の重機を使用する業者への発注を徹底するとともに、省エネ運転やアイドリングストップの励行を指導していきます。

(3) 建設廃棄物再資源化の徹底

建設業に伴う産業廃棄物は、その仕様書に再資源化に関する詳細があるため、仕様書どおりの対応を徹底します。そのほかの廃棄物についても、分別の徹底により再資源化に努めています。次年度もこの取組を徹底していきます。

ゴミの分別



(4) 受託事業所における環境活動の徹底

現在受託管理しているすべての事業所は、基本的にエンドユーザー又は元請事業主が電気・ガス・水道などの管理を行っており、当社が直接把握することができないため具体的な数値目標は設定しないが、積極的に節電・節水・省エネ等の提案や自主的な環境保全活動を進めていくために、社員に対する啓蒙活動や各種資格の取得を進めています。本年度も、環境活動の継続的な取組や新たな取組ができるよう指導を行い、設定した教育計画の達成に向けて努力、指導を行いました。次年度も引き続きこの取組を徹底していきます。

(5) 節水

本社の水使用量は、個別メーターがなく家賃に含まれているため数値として把握できません。数値目標としては設定していませんが、節水の取組として節水の張り紙の掲示をし、指導を行いました。

中部事務所では毎月の使用量が少なく基準値 19m³、削減 0%と設定しており、本年度の使用量は 16m³で目標を達成しました。

本社、中部事務所ともに、次年度も引き続き節水を徹底していきます。

節水喚起



(6) グリーン購入の推進

グリーン購入に取り組むこととし、事務用品はすべてグリーン購入・エコ商品のカタログより選んで購入しています。本年度も、エコ商品の購入割合を 90%以上とすることを目標としていましたが、本社、中部事務所ともに目標達成することができませんでした。そのため、組織全体でも目標達成できませんでした。次年度はこの取組を徹底して、目標を達成できるように指導していきます。

7. 環境関連法規制等の遵守状況

廃棄物処理法など当社に適用される環境関連法規制について、遵守評価を行いました。その結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去3年間、当局からの違反の指摘や訴訟もありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

本年度は、本社では数値に関してすべて目標達成できませんでした。中部事務所でエコ商品購入割合のみ目標達成できませんでした。結果、組織全体で、電気使用量とエコ商品購入割合が目標達成できませんでした。

電気使用量に関しては、気候によるエアコン使用量や業務作業量による影響が考えられるが、次年度も引き続き、空調の適正温度管理や不要照明をこまめに消すなどにより使用量の削減の取組を徹底していきます。

エコ商品購入割合に関しては、業務による購入品の影響があると思われませんが、次年度も引き続き、エコ商品の購入割合90%以上を目標に努めていきます。

次年度は、電気使用量，化石燃料使用量とも本年度よりさらに1%削減を目標としますので、これまで以上の取組を行っていきます。

9. 環境活動の紹介

(1) 環境整備活動



(2) 消防訓練



(3) ゴミの分別



10. 事業所の活動状況

(1) 江波事業所



(2) 緑井事業所



(3) 牛田事業所

